



## 放射線に関するリスク理解の深化と災害時対応および廃棄物に関する基盤研究

### 令和3年度における活動実績・成果の概要

本年度は、本学のオープンオンライン教育推進センターにおける**東北大学MOOC（大規模公開オンライン講座）サイエンスシリーズ「放射線安全社会入門ーリスクの知見を暮らしに」**について昨年度の開講において誤解答が多かったコンテンツ内のクイズの見直しを行い、今年度、再度開講した。案内は工学研究科、理学研究科および医学系研究科との共同のプレスリリースにより行い、2021年10月13日より受付を開始した(右図はそのタイトルカバーである)。開講期間は2022年1月12日から同年3月15日であり、763名(昨年度1,361人)の受講登録がなされた。開講期間において受講者からの質問等に逐次応えるとともに、閉講にあたり講師からのメッセージを受講者に伝えた。また、次年度(令和4年度)からは本講座を全学教育科目先進科目・カレントトピック科目として開講(後期Q3)することとなった。

一方、理学研究科、高度教養教育・学生支援機構では、これまで放射線の実践的教育のための「基礎ゼミ」を上述のコンテンツを活用して実施しており、本年度はこれを更に発展させて福島での現地研修を含む実習プログラムを検討・開発した。具体的には大阪大学が中心となって毎年実施している福島研修プログラム(本年度は8月末に実施)に、基礎ゼミを受講した東北大1年生6名と東北大教員1名が個人的に参加し、その後、理学研究科にて採取した土壌の測定等を行った。この経験をもとに**実習プログラムを立ち上げ**、次年度より実施していく予定である。

加えて、これまでも継続的に行ってきた放射線に係る専門家の講演とそこでの意見交換について、今年度は**第6回セミナー**として、福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能汚染調査における学内外の異分野の研究者との協働の取り組みや採材や測定の実験から見た汚染の現状に関するご講演を頂き、講演者と参加者との闊達な質疑をも経て、学内の個々の研究者・学生等の放射線に関する相場観を互いに共有することができた(参加者数 37名(医学系研究科、経済研究科、理学研究科(物理学専攻、化学専攻)、工学研究科(量子エネルギー工学専攻、技術社会システム専攻、電子工学専攻)、原子炉廃止措置基盤研究センター、高度教養教育・学生支援機構など、内、院生・学生 9名)

座長：東北大学大学院理学研究科物理学専攻 田村 裕和 教授

講演者：東北大学理学研究科化学専攻 木野 康志 教授

演題：福島第一原子力発電所事故汚染調査における理学研究科放射化学研究室の取り組み

関連ホームページ <https://www.ggi.tohoku.ac.jp/2021/10/15/94/> (C-4 プロジェクトの概要)

<https://www.eng.tohoku.ac.jp/news/detail-,id,1994.html> (東北大学MOOC 放射線安全社会入門 関連)



MOOCコンテンツ：目的, 第1週「放射線の基礎を学ぶ」、第2週「放射線と社会」、第3週「医学と放射線」、第4週「地球科学と放射性廃棄物」

(第1週、第2週を理学研究科 田村裕和教授, 第3週を医学系研究科 細井義夫教授, 目的と第4週を工学研究科 新堀雄一教授が担当)